

学生募集と入学者選抜

白川友紀

システム情報工学研究科教授 アドミッションセンター長、入学室長

はじめに

1993年に訪れた中国では経済の自由化が始まっており、国営の組織も思い思いに経済活動を始めていました。大学ではコピーサービス、公用車ハイヤー、農産物販売、有料公開講座の開設、私立大学の開校など様々なことが試みられていました。観光地でWJナンバー(武装警察)の公用車ハイヤーに乗ったこともありました。警察も同様に経済活動の試みをしていたのでしょう。この旺盛な活動力に驚いたものでした。しかし、その一方で師範大学では学生から授業料はとらず、2段ベッドながら宿舎があり、僅少ではあるが学生にお金を支給されていると聞き、そういう面もあるのかと思いました。

当時の中国の自由化へのパワーを思いますと、筑波大学の法人化にあたって、さあ商売をするぞ〜、という事になるかと思うのですが、実際は大学淘汰の時代と言われ、

受け身、守りに動いてしまっているところがあるように思います。

このような状況を考えながら、入学者選抜(学生募集)とアドミッションポリシーについて述べたいと思います。

学生募集と入学者選抜の状況

表1は最近のエコノミスト誌に掲載された2001年に対する2006年の志願者数の増加率データです。ここでは、大学の強さを表す目安として志願者数(倍率)をあげています。

5年前との増減データを用いることで毎

表1 志願者数増加率

大学	志願者数			06年 倍率
	01年	06年	増加率 (%)	
筑波大	7,174	6,558	-8.6	3.6
北大	10,099	10,535	4.3	4.0
東北大	9,680	8,657	-10.6	3.8
東大	15,266	14,951	-2.1	4.8
九大	8,938	8,096	-9.4	3.1

(エコノミスト誌より)

年ランキングが変わるのですが、国立大学でも志願者数が18才人口の減少率ほどではないが減少傾向にあるといえるでしょう。

志願者数で大学の強さが計れるというのも大胆ですが、学生を募集し志願者を集めないと選抜ができなくなりますから、これまでよりも学生募集にも力を入れないといけないでしょう。

筑波大学でも、平成18年11月に行われた平成19年度推薦入学の志願者が18年度よりも少し減りました。平成19年度からの学群・学類の改組があることが周知されているかどうか気になりますが、新学類や改組する学類の情報はかなり浸透してきているようです。幸い、個別学力検査等の志願者数は一部の学群で後期試験を廃止したのにもかかわらず昨年より増えました。しかし、2年目の広報もまた別の難しさがあると言われており、これからはますます学生募集の広報が重要になってくるでしょう。

学生募集広報の移り変わり

筑波大学は他の国立大学よりもずっと以前から教育企画室員や入試課職員が高校を訪問したり、受験情報産業が開催する進学説明会などに参加したりして広報を行ってきました。平成11年に国立大学にもアドミッションセンターができた頃から他の国立大学も進学説明会に参加するようになっ

てきましたが、最近では進学説明会の乱立とともに受験生の参加が減ってきたこともあって国立大学の参加はやや下火になりつつあるように思います。

パンフレット「入学案内」は毎年少しずつですが配布部数が増えています。総合的な学習の時間にいろいろな大学のパンフレットを読み比べて進路研究をするという高校も出てきて、特に今年は配布希望が増えています。受験生の大学選びが偏差値に偏らずにいろいろな情報を参考に行われるようになってきていると考えています。

アドミッションセンターのWWWサイトへのアクセスは年間概ね50万ヒットくらいです。これも少しずつ増えてきていますが期待よりもまだまだ少ないので工夫をしていきたいと思っています。また、18年度から試験的に携帯サイトの契約をしました。

数年前とは違って携帯を許可する高校も増え、高校生はたいてい携帯を利用しています。そのため携帯を手段とする広報がますます重要になっていると思います。

携帯電話で簡単に写真やムービーまで送ることができるようになりました。携帯を通じた通信が活発になるにつれ、細かいが多量の情報伝達が重要になっていると思います。

携帯による情報

高校の進路指導の教諭の話では、親しかった生徒から、大学進学後にeメールで

- ・授業が面白くない。
- ・学籍番号が奇数のクラスと偶数のクラスで成績が違う。
- ・教職をとるために実験を履修したくとも人数制限があり、しかもくじ引きやじゃんけんで履修者が決められる。
- ・1年生の時には授業が詰まっていた教職科目の履修が困難であった。4年になるとほとんど授業がなくなったが、これからは教職をとることはできない。

というような様々な大学の話が伝えられるそうです。パンフレットやWWWでの公式な情報も重要ですが、このような細かい個から個への情報は、実際に筑波大学を受験しようとしている高校生に届くので影響が大きいと考えられます。もとより大学における学生への対応が最重要なのですが、このことが今後ますます広報の面にも影響を与えることになるでしょう。何かと忙しくなっていますが、これからも学習意欲や基本的人権を尊重し、納得のいく教育をおこなっていかなくてはなりません。

大学に「求める人材」と「アドミッションポリシー」があると同時に受験生にも「求める大学」と「受験ポリシー」があります。受験生は入試に合格すれば、まずは大学が

求める人材に適合したものと考えるでしょう。そして大学に期待していた学習環境を求めるでしょう。入学後は大学がその学習環境を提供する番です。しかし、学生が期待するものと大学が提供するものの間には、どうしても大なり小なりの違いが存在します。この違いをできるだけ少なくすることが学生募集広報の最も重要な点であると思っています。

提供すべき情報

前述のように、大学のパンフレットが総合的な学習の時間の資料として使われる時代です。そこではちょっと早いかもしれませんが高校生が人生設計について考えることでしょう。つまり、何を学べるかというデータだけではなく自分のキャリアについて考えるわけですから、人生の過程としての位置づけを示すことができれば良いと思われれます。

かつての東京教育大学の時代には、教員というキャリアをめざして教員になるための学習をするという世間から見ても単純明快な姿を示せば良く、高校生にとっては目の前に教員がいて説明もしてくれるでしょうから、まぎれることはなかったと思います。

しかし、筑波大学は総合大学となり、様々なキャリアを提供できるようになりました。このことは学生のキャリア選択の自由度を

高め、より魅力的になっているはずですが、同時に分かりにくくなっています。学群・学類が考えるキャリア像の単なる寄せ集めでない総合大学としてのキャリア選択の幅をできるだけ正しく知らせる必要があるでしょう。

また同時に、学生がそのキャリア選択の幅の中で学習し、考えながらキャリア開拓をしていけるよう、これまでに筑波大学で工夫されてきたコース制などの、キャリア支援を軸にしたカリキュラムの紹介や、実際に卒業生の活躍の様子を知らせることができれば良いと思います。

おわりに

法人化に加えて国立大学の志願者数が軒なみ減少しているという状況で、もっと受験生募集に力を入れないといけないのではないか、という話を伺うこともあります。たしかにその通りだと思います。しかし、学類として高校を訪問しようか、という話にはちょっと考えて下さいと申し上げています。最近では多くの大学が高校訪問を行っていますので、「また大学の先生が来たよ」ということになるかもしれません。

むしろ、筑波大学は他大学が気づかないような中等教育におけるニーズを発見する感性と、他大学のやらないような貢献ができるだけの實力を持っていると思いますの

で、他大学に先駆けて新しい教育に挑戦することが本来の姿なのではないかと思えます。そして、これから学群・学類がおこなう基本的な広報は、これまでのように学生あたりの教員数が多いというデータを示すような広報ではなく、そのことをいかに活用して学生が期待するキャリア実現への効果的な教育を実践しているかということ、それを知らせていくことではないかと思えます。

(しらかわ ともり/知能機能システム)